



M.M

神奈川県環境学習リーダー会 会 報

No. 30 2002・2003年
12月 1月

役員会報告 (事務局長 児玉 勇)

12月役員会 12月12日(木)

1月役員会 1月17日(金)

(2回の役員会をまとめて報告します。両月とも北村博子さん特別参加)

1. 市民環境活動報告会(2月23日)の報告者の確認(12月) 当日の担当分担は2月役員会で決定することを確認(1月) 環境科学センターより「案内」が環境学習リーダー宛に発送済み。
2. 藤沢養護学校交流会(既報)の感想(当会の活動方針との兼ね合い、役員以外の参加者の募集のあり方等)と謝金の取り扱いの審議(謝金を参加者全員の同意を得て会活動資金へ繰り入れることを決定)
3. 「地域担当の募集と環境学習の講師・企画員の登録」について中間報告。活用方法は意見交換会の後で決めることを決定。(別掲報告参照)
4. 相模湖町「親子で考える環境展」(1月26日)の取り扱い方法の審議(役割分担・現地往訪日

カット：ホトケノザ
畑や野道で見かける2年草。
冬の七草にうたわれたホトケノザはコオニタビラコのこと。
本種は青くさく、食用にはなりません。
冬の寒さもそれほど厳しくない三浦半島では1月初旬から6月頃まで咲き続けます。

時決定等) 経費負担のあり方の意見交換(事前打合せ者への交通費、当日参加者の処遇、会活動資金への繰り入れ等)。会計を担当する柳川氏が具体案を作成する。(別掲開催結果報告参照)

5. 15年度総会の執り行い方法について討論(開催日時・役員立候補受付・規約改定・会費の改定等)。開催日時は4月26日(土)13:00~に決定。(詳細案内は次号)
6. 3月6日開催予定の第3回会員意見交換会の進め方について打ち合わせ。(別掲案内参照)
7. 来年度開催予定の「親子で楽しむ環境展」「子供環境体験教室」の進め方を打ち合わせ。実行委員長は前者 北村博子さん、後者 木本光昶氏に決定。(前者別掲参照)

「15年度役員」 立候補受付開始

15年度の総会は4月26日(土)午後開催することになりました。(詳細次号)

その席で新しい役員を改選することになりますが、前もって役員の立候補を受付いたします。

役員として「K・リーダー会」の運営にご協力いただける方、積極的に申し出てくださいようお願いいたします。

申出締切り：2月18日(火)(間近で申し訳ありません)

連絡先：事務局 児玉 勇

21-0005 横浜市神奈川区松見町1-44-1-406

TEL & FAX : 045-423-3960

E・MAIL : kodama@muh.biglobe.ne.jp

第3回会員意見交換会 開催案内

下記の通り、恒例になりました第3回の会員意見交換会を開催いたします。

会員も200名を超え、常に「K・リーダー会」のあ

り方を考えていかなければなりません。

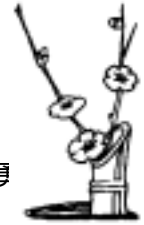
この会の意見を来年度の活動方針に反映させていく予定ですので、万障繰り合わせの上、ご参加願います。

1. 開催日時：3月6日(木) 13:30~16:30
2. 開催場所：かながわ県民センター 604室
横浜市神奈川区鶴屋町2-24-2(三越裏)
当日連絡 080-5025-9588(児玉携帯)
3. 打合せ内容
 - 1) 「K・リーダー会」の現状報告と規約改定について
 - 2) 「K・リーダー会」の今後について
先に実施いたしました「地域担当の募集と環境学習の講師と企画員の登録」の途中経過報告とその活かし方を中心に話し合う。
4. お願い
 - 1) ご参加の方は、資料として、会報30号(本号)をご持参ください。
規約をお持ちの方は規約もご持参ください。
 - 2) 当日参加も受け付けますが、出来れば事前に事務局へご連絡ください。
 - 3) 終了後、有志での懇親会を予定しておりますので、ご参加ください。

「地域担当の募集」と 「環境学習の講師・企画員の登録」

- 回答状況中間報告とその活かし方 -

事務局長 児玉 勇



本紙前号で最近の環境保全活動・環境学習の高まりに対応していくために、

最前線の行政・環境活動グループと提携して活動の輪を広げていく地域担当の募集

行政・学校から要望される「環境学習」に対し、企画から運営まで引き受ける体制の確立のための講師・企画員の登録

に対する皆さんの意向をお尋ねし、回答を得つつありますが、その中間報告をいたします。

これをもとに3月6日の意見交換会で話し合い今後の具体的な展開方法を考えていく予定ですので、是非ご出席方よろしくお願ひいたします。

1. 修了期別「地域担当」回答状況

全体で現在の回答状況は下記表-1のとおりで、ちょうど30%の方から回答を頂き、サポートも含めて37名の方から申し出を受けています。早く修了された方が少ないのは、すでに色々な所での活動に定着されているためかと思ひます。

これを市町村別に見ると、表-2のように、13市町村と横浜7区で地区申し出がありますが、まだ半数にも至っておりません。先ずこの地域を中心にお互い情報交換しながら行政・環境活動グループと連携し、地域での活動のノウハウを蓄積していくことからのスタートかと思ひます。

下記申し出のない市町村(区)でご協力できる方、ご連絡願ひます。

* 担当不在市町村(区) ()内は在住会員数

大磯町(2)・大井町(0)・小田原市(6)・開成町(0)
清川町(0)・相模湖町(0)・座間市(5)・寒川町(1)
城山町(2)・逗子市(5)・津久井町(0)・二宮町(2)
箱根町(0)・葉山町(0)・藤野町(0)・松田町(0)
真鶴町(0)・三浦市(0)・南足柄市(0)・山北町(1)
大和町(3)・湯河原町(0)・横須賀市(5)・青葉区(5)
瀬谷区(1)・都筑区(2)・鶴見区(2)・戸塚区(5)
中区(1)・西区(0)・保土ヶ谷区(3)・南区(2)

表-2 市町村別の地区申し出数

	市町村	横浜市(区)
全数	36	18
会員在住 (会員数)	23 (132名)	17 (71名)
地域担当申出	13	7
サポート申出	0	3
担当不在(*)	23	8

2. 環境学習の講師と企画員の登録について

調査項目が複雑のため、一覧表に正確にまとめることが困難でしたが、大略表-3のようになります。講師として活動している方で、未登録の方がいますが、各部会の協力も得て分野毎に登録し連絡方法・研修方法等確立していく必要があると思ひます。詳細議論は意見交換会で行います。

表-3 環境学習の講師と企画員の登録数

項目	対象				
	小学生のみ	中学生まで	小中・一般	サポート	
講師・指導	自然観察 水生生物	1		6	4
	植物	1		4	2
	森林保全	1		2	2
	水質調査	3		9	1
	大気汚染	2		7	3
	省エネルギー		1	14	6
	ごみ・リサイクル	1	3	9	6
	グリーンコンシューマー			7	2
	化学物質			3	4
	環境問題全般	3		12	4
企画運営	子ども環境教室	4	17	-	2
	環境展	-	-	11	2
	環境講座	-	-	13	1
	シンポジウム・セミナー	-	-	10	

表-1 修了期別回答状況 ()内はサポート希望(内数)

修了期	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	計
会員数	11	12	14	18	12	26	35	31	23	21	203
回答数	5	2	2	2	3	11	9	7	10	12	63
地域担当申出	3	0	1	1	3(1)	6(1)	7(3)	5(2)	8(2)	3(1)	37(10)

相模湖町「親子で考える環境展」開催される K・リーダーが企画・運営に協力

事務局長 児玉 勇

前号でもご案内いたしました、相模湖町の上記環境イベントが1月26日(日) 部会や有志の方の積極的な参加協力で無事終了しました。

その準備段階から当日の様々までをご報告いたします。

1. 昨年の6月、相模湖町から「環境イベント」を開催したいので相談に乗ってほしい旨の電話があり県民センターで話し合う。
(当方へのアプローチは毎月送付している「会報」と環境科学センターの紹介による)
2. 8月、計画案を持参された相模湖町渡辺氏と打ち合わせ(当方:代表・木本・児玉)
 - 1) シンポジウムでなく子どもも楽しめる「環境展」(展示と体験教室)を勧める
 - 2) 次回、当方より企画案を作成して先方で打ち合わせる
3. 10月、1日のスケジュール案と基調講演者・ビデオ・パネルリスト、体験教室の内容(6月実施の環境展に準ずる)等を提示、具体的な話し合いを行う。基調講演者を先方の希望でスウェーデン出身のペオ エクベリ氏と折衝し決定。イベント名称は相模湖町で「親子で考える環境展」と決定。(近くの相模原在住 斉藤氏参加)
4. 11月会報で会員の協力を求める。
大体の見積を出し、先方と調整してOK。
5. 各部会、地球っ子ひろば、ハッピープラザによる参加が表明され、環境展の北村さんを実行委員長に決定。具体的に話し合い、準備を開始。
6. 1月に入って関係者で現地視察、当日のために万全を期す。

当日は好天に恵まれ、全員張り切ったの早朝からの出発。今までのノウハウを活かした展示・体験教室は相模湖町の関係者から「ここまでやるのか」という評価を得ました。

基調講演のペオ エクベリ氏も「Learn Do Tell 学ぶ、行動、伝える」ことの重要性を説き「持続できる社会の形成」方法を具体的に示し、大きな拍手を浴び、「事例発表」では NPO「緑のダム北相模」が、地域に密着した森林整備の実情を発表、内容

は非常に充実したものになりました。



講演するペオエクベリ氏

しかし参加者が予想より少なく(300名の記念品を用意したが、ほぼその半数)環境に大きな関心を示す町民や子ども達に限定されたのは今後の課題になりました。



展示・体験教室風景

K・リーダー会としては、今回、相模湖町に対して企画から実施まで一貫して協力できる体制で臨み、今後の活動のあり方に大きな示唆を与えてくれたと考えます。

6月には第2回の「親子で楽しむ環境展」を計画していますが、この経験を活かした環境展が期待されます。

NPO法人環境学習研究会を訪問して

東京都環境学習リーダー講座の修了生が 中心となって設立したNPO法人

NPO法人環境学習研究会は、環境保全活動の地域のリーダー的な人材育成のために東京都がおこなっている「東京都環境学習リーダー講座」の修了生が中心となって設立されたボランティア団体です。

NPO法人化するまでの経緯やその後の事業運営について情報収集するために、昨年11月、K・リーダー会の役員5名（清水代表、石丸副代表、児玉事務局長、高橋、木本）が環境学習研究会を訪れました。

環境学習研究会からは、島田理事長、谷村副理事長、山崎事務局長、松田理事にご出席いただきました。

その内容についてお知らせします。

[会の生まれた背景]

最近、行政・学校・事業者・市民がパートナーシップにもとづいて、環境学習や環境保全活動を推進するために協働するというニーズが高まりつつあるが、それを実践する仕組みがなかった。また、平成14年度から導入された「総合的な学習の時間」にあわせて環境学習を取り入れる学校が増えてきたが、この学習に地域の行政・事業者・市民の支援が求められている。

当研究会では、当初より「楽しく環境を学ぶ」、「地域でのパートナーシップづくり」を目標に掲げ、活動を続けている。具体的には、児童館主催環境イベントの企画・運営、行政環境部局主催環境イベントや市民環境講座の企画・運営、企業主催環境イベントの企画・運営、更に、平成14年度から導入された「総合的な学習の時間」の支援など、まさに実践する仕組みづくりを目指している。

[会の構成]

専従スタッフ 5名、正会員 30名、一般会員 11名で運営されている。

また、会員とは別に、本田技研工業、東京コカコーラボトリングなど6社の協働企業がいる。



[活動内容]

会の主な活動内容は次の通りです。

1. 児童館など地域での環境啓発活動
2. 環境省、東京都、各市町村よりの受託事業および、環境啓発イベントならびに、市民環境講座などの社会教育活動
3. 学校における環境学習、「総合的な学習の時間」の学習支援
4. 企業とのパートナーシップによる環境啓発活動
5. 環境学習をテーマとした教職員向けの情報誌「ecok 東京」の発行
年6回（隔月）、3500部発行。
都内の全小、中、高等学校に無料配布。その他、東京都環境局などの行政関連、企業、個人などにも配布。

平成14年度の受託総額:

24,500千円

[連絡先]

NPO法人 環境学習研究会 山崎事務局長
東京都中央区銀座2-10-11
TEL/FAX 03-3547-1650
<http://www.ecok.jp>
e-mail kankyo@ecok.jp

「訪問後の感想」

先ず、感じたのは東京の銀座2丁目という極めて利便性の良いところにオフィスがあるということである。オフィスのスペースは決して狭くないが、専従スタッフの5名が「楽しくなければ伝わらない」を会のモットーとして、チームの連携をうまくとっているという印象をうけた。

このチームワークの良さが、法人化僅か4年でこれだけ充実した環境活動がおこなえる団体に成長したポイントであると思われた。

しかし、一方でNPO法人格取得時やその後の事業運営に様々な困難、特に運営資金の面で苦労の多いことも聞かされて、当会にとってもたいへん参考になった。

（広報部 木本 光昶）

第2回神奈川県環境学習リーダー会“環境展”

6月開催 出展参加者を募集

実行委員長 北村 博子

今年も、平成15年度“環境展”を下記要領で実施することになりました。

14年度、第1回“親子で楽しむ環境展”は初めての試みではありましたが、“楽しむ”を副題として、沢山の子供達と親、一般人に至るまで「環境」の今を、参加・体験し“楽しん”でいただくことが出来たと思っています。副題“楽しむ”については、異論ある方もおられると聞いていますが、【楽しむ】とは、【心が満ち足りて安らぐ 趣味や娯楽とする 期待を掛け、其れを喜ぶ(広辞苑)】等、対象に向ける意欲を前向きにする事であると理解しています。

主催者側・参加グループそれぞれに、実施体験を踏まえて・反省点もあったことと思いますが、15年度は、14年度環境展・相模湖町環境展実施の成果を活かして、更に充実・発展させ、神奈川県環境学習リーダー会の実績と存在をアピールしていく考えていますので、会員の皆様の実行委員・出展参加等のご協力を宜しくお願いいたします。

記

1. 第2回 神奈川県環境学習リーダー会“親子で楽しむ環境展”

日時：2003年6月8日(日)10時～16時迄
場所：かながわ県民活動サポートセンター
1階展示室

2. 平成15年度 第2回環境展
第1回実行委員会

日時：2月19日(水)16時～17時
場所：かながわ県民サポートセンター
602号室

3. 環境展出展参加ご希望の方は、下記要領でご連絡下さい。

(1) 出展参加希望会員名及び、グループ名

(2) 出展希望内容

内容 テーマ キャッチフレーズ

(3) 使用設備・備品

パネル(120L×180W)

展示台(180L×45W×74H)

電源・水等

(4) 出展参加申し込み締切り 2月28日(金)

連絡先：環境展担当 北村 博子

TEL/FAX 045-474-1617

部会活動

環境モニタリング部会

部会長 佐伯 秀夫

活動報告(12月、1月)

(1) ツバメ、ジョロウグモ調査結果

ツバメおよびジョロウグモの調査票を同一にしたため、ツバメ調査をジョロウグモと同時にデータ提出が行なわれた等、調査データの提出遅れが主原因でツバメ調査結果のまとめ作業も遅れたが、このたび、ツバメ、ジョロウグモともに調査結果がまとまり、夫々の“環境マップ”も作成、インターネットへの通信手続きも行なった。

詳細は1月例会(下記活動予定参照)で報告予定。

(2) 12月度NO₂調査結果

恒例どおりの定点、幹線道路、測定者の関心

のある地点について実施した。

依知南小学校(厚木市)が参加した。

12/1 捕集管の組立てと配布

12/5～6 24時間サンプリング

12/15 濃度測定

測定捕集管数：276(うち依知南小学校分：26)

調査結果に基づく“環境マップ”作成。

詳細は1月例会で報告予定。

(3) 1月例会

日時：1月18日(土)10:00～12:30

場所：横浜市市民活動支援センター

テーマ：

14年ツバメ、ジョロウグモ調査結果

14年12月度NO₂調査結果

酒匂川探水隊活動報告

相模湖町環境展(1月26日)について

その他

(4) 相模湖町環境展(1月26日)への参加

(次頁へ続く)

(前頁からの続き)

活動予定

(1) 3月例会

日時：3月8日(土) 13:30~16:00

場所：環境科学センター(予定)

テーマ：

14年度部会活動総括

15年度部会活動計画の検討

その他

ケナフ部会

部会長 荒谷 輝正

ケナフ部員が携わる11月~平成15年1月までの活動について報告します。

活動報告

1. 秦野市東小学校6年2組、3組約70人に3回に渡ってケナフの紙漉指導を行いましたのでまとめて書きます。

11月1日 荒谷

ケナフの紙漉の課程について1時間説明をする。続いて、質疑応答。父母会からも聞きに来られていて熱心に聞いていただきました。東小学校はケナフを畑に植えており、卒業証書をケナフで作成する為に頑張っています。

11月22日 小川、鈴木、荒谷

前回の続きとして、実際に畑から取って来たケナフからパルプ作りの課程を指導する。野外でケナフの茎をたたいたり、はさみで小さく切ったり、圧力釜で煮る作業を通じて、物を作る楽しさ、物を作る事の大変さを理解したようです。今回も父母会から参加が有りました。

12月10日 小川、鈴木、荒谷

最終回として、事前にパルプ化していた材料を

使用して、実際に紙漉を実施する。

各自2枚以上作り、ケナフから紙が出来ることに大変興味を持ってくれたようですが実際に卒業証書に行くのには、大変だなと言う感じでした。

2. ケナフ部会例会

11月23日 ケナフの刈り取り(一部は種が未成熟の為刈り残す)及び相模湖町の環境展についての打ち合わせ。

12月15日 ケナフの刈り取り、圃場の整理。相模湖町環境展に使用するパルプを実験室を利用して作成する。

3. ケナフ部員の行った活動

12月1日 荒谷、相模原市清新自治会の要請で親子紙漉教室を開催。

約30人参加。

今後の予定

1月26日 相模湖町主催の環境展に参加

2月22日 愛川町主催の環境学習講座に参加

なお、その他開催及び紙漉等の指導依頼が来ていますが、日程が決まっていませんので割愛させていただきます。

エネルギー部会

部会長 北村 博子

活動報告

1. 親と子の楽しい省エネ教室 11月17日

親子1組、小学校教師2名・総合的学習・省エネ学習講師として北村が受託した学校の先生方。

10・11月は、運動会・研究発表会等行事重なり、子ども・親共々多忙につき、参加者僅少。参加者集めが目下の問題。小学校総合的学習では、NGOの協力を必要としているが、該当項目提供可能グループの所在不明でコーディネーター必要。

2. 定例会

1) 12月15日・下條/萩原/藤木/青野/北村/10期終了者・吉川さん参加。大学の元教職、心強い協力者

相模湖町環境展出展打ち合わせ

環境家計簿・検討

1月~3月予定打ち合わせ

平成15年活動計画

・“親子省エネ教室”参加者のフォローアップ

・燃料電池取り組み

・中小個人商店等の省エネ指導

2) 1月19日・福田/下條/萩原/青野/吉川/北村

相模湖町環境展展示パネル最終決定

市民環境活動報告会 発表要旨詰め・意見交換「燃料電池」について・・・吉川

3. 相模湖町環境展“親子で考える環境展”出展

「省エネは、我が家の暮らしから」

1月26日(日)11時~16時

場所：相模湖交流センター・ギャラリー

節電コンセント製作・電池色々

待機時消費電力を見る。ワットアワーメーター。

地球温暖化の仕組み。省エネ効果・植林何本分?

「省エネチャレンジ」と、少エネ記録

エコ紙芝居・エコカルタ取り

「地球が大変」「今が変われば」ビデオ視聴

省エネナビ

(次頁へ続く)

(前頁からの続き)

- 4. 2月2日(日) 11時~17時
 かながわ県サポートセンター
 省エネ月間第7回“親と子の楽しい省エネ教室”

活動予定

- 1. 定例会
 - 2月9日(日) 14時~17時
 かながわ県民活動サポートセンター 704室
 - 3月2日(日) 14時~17時
 かながわ県民活動サポートセンター 701室

2. 会活動

- 省エネ共和国サミット 2003
 2月7日(金) 13時~16時
 東京ビッグサイト: 活動事例発表
 第9回市民環境活動報告会: 発表・展示
 3月8日(土) 9日(日) 10時~
 場所: 神奈川大学: 展示指導・出展
 横浜市神奈川区「友・遊まちづくりフォーラム」
- 3月30日(日) 11時~17時
 場所: かながわ県民活動サポートセンター604
 春休み第8回“親と子の楽しい省エネ教室”

廃棄物・リサイクル部会

廃棄物・リサイクル部会担当 石丸 博司

活動報告

- ・12月9日 第11回“ひと”と“環境”にやさしいまちづくり」ワーキンググループ
 関東近郊は前日から雨・みぞれで交通が大混雑、当日午前中まで混乱、会場まで来られない人もあり4人で実施しました。

主な課題

取り組んで来た課題と経緯について
 第9・10回会合で作成した質問紙を大幅に見直し、わかりやすい質問紙に。次回に再度検討。

- ・1月19日 新年の会合。新メンバーを加えて。出席者 上野さん(2期)、市川さん(9期)、黒澤さん(10期)、高田さん(10期)、原さん(10期)、石丸の6名。

主な課題

- ・部門としての課題や取り組みの方針
- ・関連する環境問題
- ・地域の健康診断質問紙のまとめ
 自己紹介

・原さん - 年末年始、オーストラリア・ニュージーランドと回り、人間と自然との調和のバランス、都市計画のダイナミックスさに感心。食文化は日本の方がエコライフである。今展開中のエコ料理教室(畑での食材作りから)“食”からの環境問題を展開したい。

・黒澤さん - コンピュータ関連の会社で品質管理・ISOの推進、審査員経験。今後“環境教育”特に大人を対象に身近な環境問題を取り上げ広げて行きたい。

・高田さん - 化学分野の企業で公害防止、紙パック会社で環境問題・ボランティアとの関り。品質管理・ISO主任審査員。杉並環境カウンセラー協会他立ち上げ。ゴミの減量化(有料化を含め)、温暖化防止、PRTR問題、子供の教育のための先生のレベルアップ、そのメニュー作り、などに取り組みたい。

・市川さん - 環境問題は工学部での学習がスタート。海老名市子供会の廃品回収の取り組みなどいくつかの市民活動に取り組む。昨年9月スエーデンを環境視察。国・地域での取り組みに大変啓発された。ディスポージャーを含め畑から始めた“食文化”の見直しとゴミの減量化に取り組みたい。

・上野さん - 有機化学分野(繊維・石油化学会社)で公害防止等と品質・ISO審査員。当リーダー会初代代表。廃棄物・リサイクル部会を立ち上げる。

・石丸 - 紙面の都合で省略。

部会の課題

- ・活動として考えたいこと(案)
- ・地域活動として具体的な展開
- ・環境に敏感な市民づくり・まちづくり
- ・環境教育 子供・教師・市民
- ・行政の環境計画への働きかけなど

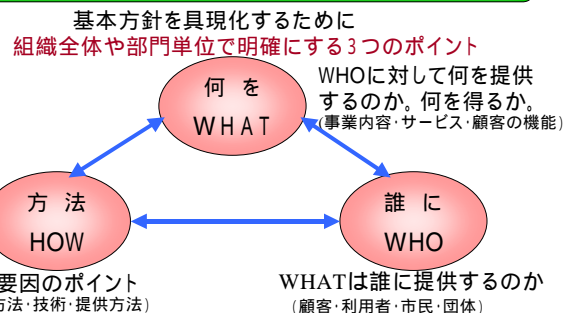
次回以降、部としての中核的な課題と使命、関連する環境問題と課題を論議し明確にしたい。

終了後食事会、食事しながら熱い論議、女性パワーに驚く3時間半。

次回会合

- ・2月11日(火)祭日・海老名市民活動S
- ・3月11日(火) 両日とも13:30から。
 取り組みたい方歓迎、連絡下さい。

組織の使命(ミッション)が持つ基本的な要素・条件



ミッションの条件

- ・将来の自組織の存立基盤を明確にする(何で誰にどう貢献するのか)
- ・将来の可能性に対するイメージづくり・アドバルーン(夢とロマン)・わかりやすい。

= 豆知識のページ =

市民と行政でつくる 生涯学習・環境学習 横浜市の場合

昭和63年5月に「横浜市生涯学習基本構想」が策定され、平成11年11月に「第2次横浜市生涯学習基本構想」が発表されました。

この構想に基づいて市内の各区役所の地域振興課に、区民の生涯学習を支援するために生涯学習支援係が設置されました。

この生涯学習は、教養・文化、情報処理、歴史・自然観察などさまざまな分野で取り組まれています。ここでは、各区役所の生涯学習の中で「環境」をテーマとして学習をおこなっているところに限ってその実情を調べ、その結果についてお知らせします。

「環境」をテーマとして生涯学習に取り組んでいるところは、市内の18区役所のうち10区役所ありました。

それらの中で、いくつかの事例について概要を説明します。

(1) 神奈川区役所

平成11～13年の3年間にわたって「環境問題を考える会」が環境をテーマとして、地球環境、ダイオキシン、自然エネルギーなど幅広いテーマについて生涯学習講座を開催。

この講座修了後も会の運営委員会と受講生が一体となって、活動を継続している。

(2) 磯子区役所

今年度から運営委員会「わたしの暮らしと環境」が中心となって、環境学習講座がスタートした。講座のテーマや講師の選択はK・リーダー会の会員と地球温暖化防止活動推進員らからなる運営委員会で検討され、順調に決定された。

この委員会は女性委員の多いのが特色で、9名の委員のうち4名が女性であり、参加者の募集など広報活動にも活躍している。

(3) 栄区役所

平成10～12年の3年間、環境をテーマ

とする生涯学習が開催された。

平成12年の場合、「今のままでいいの私たちの宇宙船号」というタイトルで環境に優しい循環型社会を旨として学習がおこなわれた。

3年間に開催された講座は、海辺の自然、原子力、ゴミのゆくえ、環境ホルモンなど多岐にわたっている。

(4) 金沢区役所

環境問題学習会が「暮らしと環境」講座を始めて今年で3年目になる。「省エネやりますか?」というテーマで、環境エネルギー館の見学、簡単な器具を用いての大気を調べる方法の学習が予定されている他、講演会「混合収集焼却型都市からの脱却」の開催が3月に計画されている。

(5) 港北区役所

運営委員会「リトル・グリーンズ」が、今年度から“はじめてみよう環境学習”をキーワードとして、「目をそらさない毎日のゴミ」というテーマで鶴見資源センターの見学、講演会「地球の生き立ちとエネルギー」の開催、鶴見川クリーンキャンペーンへの参加などを実施している。

(6) 戸塚区役所

今年が2年目で、運営委員会「輝け市民、きれいな戸塚」が「ヨーロッパのゴミ事情」、「横浜市のエコ組織について」などの講演会、最新のゴミ処理場の見学などを実施している。

ここでも運営委員会が講師の選任に苦労したが、学習修了後、受講者からは活発な質疑の応答や意見交換がおこなわれ、盛況であった。

この他、南区、青葉区、泉区、瀬谷区で環境学習が実施されたことがあるか、または実施されています。

これらの各区の実施状況の詳細を知りたい方は、各区役所の地域振興課生涯学習支援係にお問い合わせください。

(広報部 木本 光昶)



家庭での省エネの意義を CO₂ 排出量で見ると

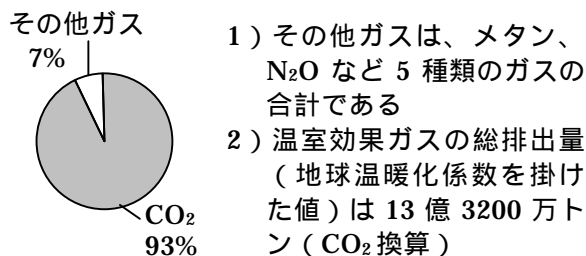
2月には暖房用を始めとしてエネルギー消費が多くなる月なので、1977年から毎年2月は「省エネルギー月間」になっています。この「省エネルギー月間」の目的は省エネの意義を定着させると共に省エネの実践を促すことにあります。

後者の省エネの実践については「暖房中の室温は20を超えないように設定する」など、実践すべき事項が多々言われています。今回は前者の省エネ（特に家庭での省エネ）の意義を考えるために、エネルギー消費に密接な関係を持つCO₂排出量（日本の量）を調べてみました。

省エネは地球温暖化防止

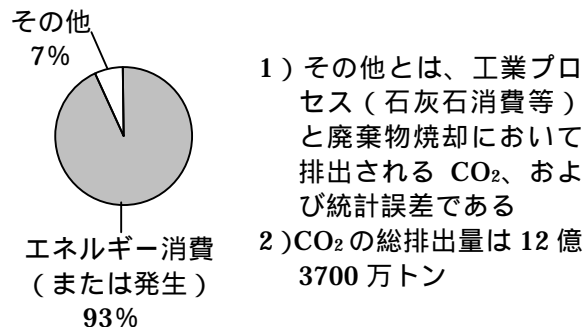
地球温暖化は温室効果ガスの増加が原因であり、図1のように温室効果ガスの中味はCO₂が93%を占めています。

図1：温室効果ガス排出量（2000年度）



このCO₂の排出源は図2のようにエネルギーの消費（または発生）が大部分（93%）を占めています。従って、エネルギーの消費（または発生）を減らすこと（すなわち省エネ）はCO₂排出量の削減になり、地球温暖化防止につながります。

図2：CO₂排出量（2000年度）



家庭でのCO₂排出量

上の図2では「エネルギー消費」と一言で書きましたが、その内容は図3のように5つの部門に分けられます。家庭部門はCO₂総排出量の13%を占めています。

図3：CO₂排出量 - 部門別（2000年度）

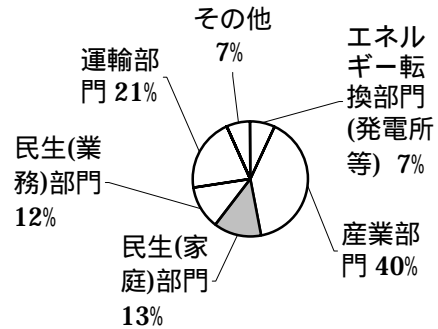


図3は電力配分後排出量の割合である。すなわち、エネルギー転換部門（発電所等）において排出されるCO₂量を電力消費量に応じて最終需要部門に配分した後の割合である。

家庭部門のCO₂は何に由来しているかを見ると、図4のように照明・家電製品が34%、次いで給湯（風呂、シャワーなど）が27%、暖房が26%であり、これらが大部分（87%）を占めています。

図4：家庭から排出されるCO₂（1999年度）
（kg-CO₂/世帯/年）

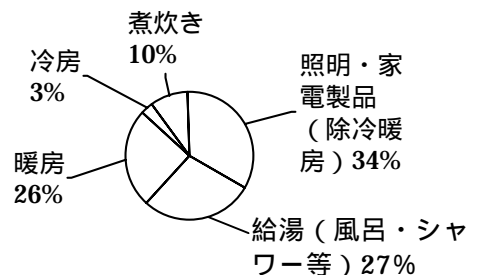
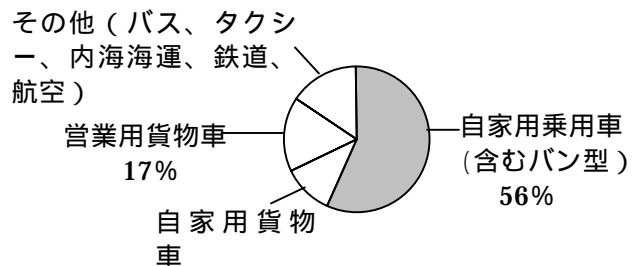


図3においてマイカーは運輸部門に含まれています。マイカーだけの数値は分かりませんが、マイカーと法人の業務用乗用車を合わせると、図5のように運輸部門において大きな割合（56%）を占めています。

図5：輸送機関別CO₂排出量の割合（1999年度）



上記各図の数値は次の資料に基づいています。

- 図1～3：環境省資料
- 図4：住環境計画研究所資料
- 図5：国土交通省資料

（広報部 羽生田 洋啓）

新会員（10期）の広場



実践活動を始めると

10期 川端 昌昭

環境問題、特に地球温暖化防止についての報道及び議論が巷間を賑わす様になり、当初は自己の探求的関心から市民活動に足を踏み入れた。ところが、この分野では地域の多くの方々が活躍されており熱意と行動力に敬服したものである。これら諸先輩の強いすすめにより、昨秋の環境実践者養成講座に参加させていただいた。

何よりも感銘を受けたのはプログラムの中で「横須賀ほたるの会」亀井氏による会の永年の地道な努力、「正に継続は力なり」の実践活動、そして「ネイチャーゲーム」を指導された女性の村田氏のエネルギーとオーラであった。

とかく知識の吸収と頭の中での思考、そしてその結果の議論に陥り易い自分に対し、目を開かせるものであったと同時に、これら活動の原動力は何であるのか、と考えさせられ、また反省もさせられた。

自分なりに神奈川県地球温暖化防止活動推進員（1期2期）、市環境審議会委員、市環境シンポジウム実行委員等を経験したが、これらの

中で感じたことは「効率的、効果的対応システムの構築」である。日常生活に現在直接的被害の見えにくい地球温暖化防止等はセッカチな対策は期待する方が無理としても行政、事業者、市民の間及び夫々の立場の中での連携プレーが重要である、との思いに至った。しかし、それにも増して市民レベルでは分に応じた実践活動が必須であるとも考える。



実践者養成講座はその一つのキッカケとなり、目下市民活動の先輩達と共に具体的な計画を進めつつある。活動はまだ緒についたばかりである。自分としては、環境マネジメント、実践活動を併行して努力したいと考えている。報告すべき成果が出た場合はあらためてお知らせしたいと思っている。

K・リーダー会に入ったものの

10期 黒澤 宏

環境実践者養成講座との出会いは、昨年2月に受講した実践者支援講座（環境情報発信コース）に遡ります。そのときに環境学習リーダーの話聞き、また、環境科学センターの環境に関する沢山の資料に囲まれた3日間ですっかり虜になってしまいました。その後、県のたよりで環境実践者養成講座の開講を知り、今回の受講となったわけです。

これまでの環境マネジメントシステム（EMS）の企業内での構築活動、協力会社の構築支援活動及び多くの中小企業のISOに対する取り組みを見て感じることは、EMSを構築し、要求事項に沿った活動そのものを全く否定するつもりはないが、認証取得の動機付けの面でもっと、企業として、トップの地球環境保全に積極的に取り組む姿勢と従業

員の意識を高める必要性を感じておりました。そのことに自分として何か役に立っていないかと考え、もっと自分の環境に対する理解を深めるべく講座を受講させていただきました。

企業のトップ・従業員を中心とした大のおとなに環境の教育をするには、僅か5日間の講義では如何ともし難く、環境学習リーダーとして恥ずかしくないよう更に他の機関等で勉強中で、今後環境教育をどう実施するかを考えて行きたいと思いますが、当面できるだけ沢山の催し/研修会に参加してレベルアップをするとともに、K・リーダー会では、生活に直結する廃棄物・リサイクル部会でお手伝いをしていくつもりであります。

先輩方、同期の方の暖かいご指導とご協力をお願い致します。



新たな気分で環境問題に取り組む

10期 高田 重直

私が、環境に直接的に係わったのは、'93年に日本テトラパック(株)の環境部に転籍してからで、環境行政や紙パックの原料である紙のもととなる木材資源や原紙、また飲み終わった後の紙パックのリサイクルや廃棄時に於ける環境問題等を手掛け、退社した'99年以降は、ISO14001環境マネジメントシステム審査員として現在まで環境に係わってきております。

この度、環境実践者養成講座を受講し、幅広い知識を得たので、新たな気分で環境問題に取り組んで行きたいと考えています。

所詮、環境問題は、ローカルで、それを発展させてグローバルな地球環境に思いを馳せるわけですから、まずは地域社会の環境問題に真剣に取り組むことが重要だと考えています。

私の住んでいる藤沢市には、こういった環境問題があるのか、神奈川県には、こういった環境問題が顕在化し、また潜在的なリスクが内在しているのかを皆さんに教えてもらいながら自らも調

べてゆきたいと考えています。

当面は、廃棄物・リサイクル部会に加わって勉強させていただこうと考えていますので、宜しくお願いいたします。

K・リーダー会への期待の一つとしては、総合学習の時間を活用した環境教育の推進です。その機会を見つけることと、如何に解りやすく生徒に伝えるかが重要だと考えますが、私は、クリーン・ジャパン・センターから講師の資格は頂いてます

ものの、まだ実行した経験がありません。是非とも先輩諸氏のお力を得て取り組んで行きたいと考えていますので宜しくお願いいたします。



廃棄物・リサイクル部会に加わって

10期 原 順子

現在、廃棄物・リサイクル部会に加えてもらい、モデル地区を作って、地域で環境活動を展開していこうと、みんなで頭を寄せ合っているところです。

月1~2回の会議も沿線であり、活動の舞台は地域になるので、行動範囲はさほど広くなく、わたしに適した運動スタイルだと思っています。ただし、昨年半年ほど掛けて試行錯誤してきたことが、今年は行動に移りますので、現実的に人と接することや、交渉、また専門知識も必要になってくるでしょう。その点が非常に不安です。

これは直接は今の活動とは関係ないのですが、この正月、オーストラリアのメルボルンの友人を尋ね、ニュージーランドと一緒に回ってきました。オーストラリアもニュージーランドもイギリス移民が作った国で、街は美しく、広大な自然を堪能しましたが、西洋文化の侵略性を感じずにはいられませんでした。そして、食文化の違いが底辺にあるようにも感じました。

その点はわたしたちが持っている五穀を中心と

した大地が育むものを食べていく食文化、農文化というのは、もっと見直されてもいいのではないかと思いますし、エコロジカルな視点から評価されうるものだと強く思いました。

わたしたちって、思っていたより結構エコな生活を知っているのかもしれないなどと、ちょっと楽観的になったのですが、今の日本は工業国で、消費文明を余儀なくされているのですから、そう簡単ではなさそうです。

ともあれ、今年の廃棄物・リサイクル部会の活動に無事、乗っていきたいと思っています。



環境学習リーダーのひとりとして

10期 山崎 美由紀

私の住む中井町は春にはみずみずしい新緑を湛え、秋は赤や黄色が織りなす色合いが美しい雑木林があります。夜明けの鳥の鳴き声に目覚め、丘の上の畑にはキジが羽ばたき、野うさぎの足跡が・・・と里山を語るには余りある自然の恵みがあります。しかしそんな町の中にも環境破壊が進んでいます。豊かな湧き水は地下の中で汚染され、また目の届かない雑木林の中には不法投棄されたゴミがあちらこちらにと、問題点が数多くあります。



環境実践者養成講座で環境問題を幅広く学ばせて頂き、確実に迫り来る地球環境問題の進行に環境学習リーダーとなったひとりとして、私に出来ること、伝えられることを実践していきたいと考えています。

そのひとつとして4年程前から炭や木(竹)酢液に関心を持ち、生活の中で取り入れていましたが、竹炭なら初心者でもドラム缶を利用して焼くことが出来ると知り、仲間達と炭づくりにトライしています。竹炭・竹酢液が人にとって安全で、健康的で、快適な生活に広く活用できることがいろいろなる場で認知されてきました。竹を炭にすることで密生してしまった竹ヤブを健全な竹林に再生することが出来れば良いと思います。

豊かな大地と、清らかな水、よどみない空気が人を育てるのではないのでしょうか。それぞれの地域や考え方で、出来ることを出来る人が環境問題に取り組み、そして1人でも多くの方が環境を考えた生活をしていくようになればいいですね。

私は今後地域の女性グループとともに、実践活動を推し進めると同時に、環境学習センター実習室を利用して頂き、自分たちの五感で得た環境問題と向き合い、活動を広げていきたいと思っています。

この頃考えること

10期 吉川 明静

ここでは、環境問題に対する人々の認識で最近改めて感じたことと、温暖化防止活動の1つとして、環境税導入の後押しをしてはどうかという、2点について書かせて頂きたいと思っています。

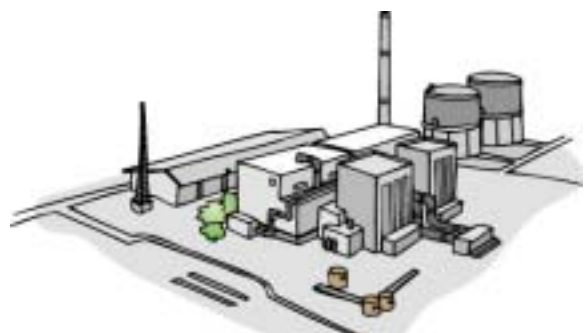
私に近い人達、親戚や友人に、今の地球環境の深刻さを話しますと、本当にそうなのという返事が多いのに驚きます。コピーライターのマエキタミヤコさんによると、「持続可能な発展」という言葉を知っていた人は一般の人で3%でしかなかったそうです。ですから、私の周りが特殊なのではないようです。

環境問題がこれだけメディアで取り上げられ、また多くの広報パンフレットが出されているのにどうして人々の間に浸透していないのでしょうか。何が欠けているのか、よく考えて対処せねばならないと思っています。

私は温暖化防止を自分の主テーマにしたいと思っています。これに関して、個々の省エネ運動も有効で、大切ですが、マクロな手法で、環境税は

効果的だと思います。税導入の国民的合意を得るため、これをサポートする活動を考えていいのではないのでしょうか。地域の特徴を持たせた環境税の内容や使い方の検討・提案など、考えるべき問題は沢山あり、特徴を出した活動が出来ると思います。

以上述べましたことで、K・リーダー会で既に検討し、議論された事柄があるかもしれませんが、それらを含めて皆さんのご意見をお聞かせ頂ければと思っています。



『環境』について思うこと

10期 若林 茂男

毎日の生活で環境関連の問題で考えさせられることが多い。

イ) 原子力発電は地球温暖化ガスに無関係と云う理由で、夜間も昼間と同様、全出力のベース・ロードで運転され、人影も疎らな深夜のコンビニの照明やまばゆいばかりのネオンサイン、そして省エネなんのそのと快適さを求める家庭の暖冷房等に電力を供給し、資源の浪費をし続けていいのか？

ロ) ダイオキシン等の有害物質は、廃棄物処分場から漏洩することなく確実に隔離できているのか？

ハ) 毎年6月始めに蛍が舞う近所の雨水排水溝に空き缶・ビニール袋・残飯が捨てられていることが多いが、今年もあの柔らかい光を楽しむことが出来るだろうか？

ニ) トリクレン等の溶剤は、河川の生物のホルモン作用に悪影響を与え初めているのでは？

ホ) 石油を空気と同じように考えて、自家用車の大型化が進んでいるが、大気汚染防止の面からもっと思慮深い行動が必要ではないか？

ヘ) 海の恩恵を受けている釣人や漁師がタバコや弁当のプラスチック容器・袋を何故平気で海に捨てるのだろうか・・・？

昨年3月末の定年を前にして、地域社会に何らかのお返しができる課題を探し、そして実践していきたいとの思いが募っていました。こんな思いの中で、まず、環境問題に関する知識を吸収し、解決への糸口を学ぶことにしました。

幸いにも、県の環境実践者支援講座 実践者養

成講座 地球温暖化防止コース 循環型社会コース、鎌倉市の“緑の学校(全10回)”を受講することが出来、また図書館では、「奪われし未



来(コルポーン)、「地球白書(レスター・ブラウン)」等のすばらしい本と出会うことができました。

ささやかな取り組みですが、家庭内での省エネ等(電気を小まめに消す/蛍光灯への切替/皿を洗う前に油分をポロ布で拭取る/極力、公共交通機関利用他)環境保護の観点から草刈や清掃のボランティア活動への参加を心がけてみました。そう、センターの書棚からは『ミミズの生活を調べよう(さえら書房)』を見つけ、ミミズ(君)の天職(土壌の浄化)を知り、以来大切な友達と位置付けています。

さてこれからは、(1)10余年のナショナルトラスト運動の結果、鎌倉市が買戻すことになった“広町緑地”は、近々、森林公園化の整備作業が始まります。既に立上っているボランティア団体のいずれかに参加して、市民の森として育つのを“汗をかいて”見守っていきたいと思います。(2)前記問題意識解決のきっかけとして、K・リーダー会の活動にもできる限り参画していきたい。既存の各部会の活動にすんなり融合できる問題ではないと思いますが、取組方法を模索し、真に実践できる課題を探しあてていきたい。

地道に地域で取り組む

10期 和田 瑛介

昭和40年代日本は戦後復興の掛け声と共に高度経済成長の道をひた走りに走っていました。行政官庁による公共投資、民間企業による設備投資と相次ぐ資本投下による経済発展へと好況が続けてきました。

漸く此れ等の施策が市民生活の上に多大の障害のある事が云われ「公害」と云う意識が出て来たのです。とくに「建設公害」はひどく私も当時は悪名高いゼネコンの1社員として工事計画を担当し公害発生の元凶だったのです。その頃の企業に

おける公害意識は、如何にして市民の目をそらせるか、又工事担当者は如何にしてそれ等乗り越え、強引に工事を進めるかが社員の能力として評価されたものです。



此の度「環境実践者養成講座」を受講し、その内容が科学的に分析され、将来(次頁へ続く)

(前頁からの続き)

を見通してのものと高度の発展をしていたのには昔日の感を抱きました。唯もう一步経済社会との関わり合いにつき触れて頂きたかった感がありました。

然し振り返って公害から環境へと歴史的な転換をして今に至った事を思う時、いつの時代でも個人の地道な問題の取り組みが基本にある事は変わらないのではないのでしょうか。

個人、企業と2つの面で考えられているようですが、企業とても個人の集合体であり、企業人も家庭に帰れば1市民に替わる事を思い、個人の資

質が企業を形造くっている事に思いを致すべきでしょう。環境問題は1つです。何故なら地球環境は1つだからです。その意味で高邁な学問も理論も専門家にまかせ、私の様な市井の1個人は、地道に、謙虚に、自らの地域で目立つ事なく長い目で努力して行きたいと考えています。

幸いに地域の環境グループに属し、小さな歩みを続け、此の働きが休むことなく行われる時、次代に引き継ぐ何かが生まれる事を信じ、今日も自転車のペダルを踏んで川の様子を見に出かける所です。

会計からのお願い

会計担当 山田あや子

平成14年度の事業もあと2ヶ月を残すだけとなりましたが、現在、今年度の会費未納の方が39名おられます。振替用紙を同封いたしますので、是非、早めの納入をお願い致します。尚、平成13・14年度2年間未納の方につきましては、退会とみなし31号からの会報の送付を中止せざるを得ませんのでご了承願います。

今年度の総会でも実情を説明しましたが、各部会をはじめ様々な活動が活発化するのに伴い、予算が厳しくなっている状況です。会計としては3月6日(木)の意見交換会では「会費値上げについて」を話し合ったいと考えています。

広報部員増える！ 更に広報部員募集！

広報部のメンバーに黒澤宏さん(10期)が加わりました。皆さん、よろしくお願いいたします。

下記のとおり広報部員を募集しています。多くの皆さんの応募をお待ちしています。

担当役割：下記の一つまたは複数

- ・会報の編集企画
- ・会報記事の取材
- ・会報紙面作成(パソコン操作)
- ・会報の印刷、発送

募集期限：随時受付

連絡先：広報部長(本紙末尾参照)

(広報部)

掲示板

市民環境活動報告会

第9回市民環境活動報告会が下記の通り開催されます。当会の会員をはじめ、多くの方の発表があります。皆さん、参加しましょう。

日時：2月23日(日)10:00~16:20

場所：県民サポートセンター 2階ホール

当会の総会

平成15年度の総会が下記のとおり行われます。予定表に記入して下さい。詳細は次号に掲載。

日時：4月26日(土)13:00~

場所：環境科学センター

グリーントフ事務局長武部さん死去

当会報26号「豆知識の頁」で紹介したグリーントフ(神奈川県自然観察指導員連絡会)の事務局長の武部正彦さんが10月12日亡くなりました。

ご冥福をお祈りいたします。

グリーントフの新しい問合せ先：

事務局 増田 稔

〒194-0203 東京都町田市図師町1547-6

Tel 042-792-5216 Fax 045-895-4884

編集後記

霜柱の音が一足ごとに「サクサクッ」と音を立てる。1月の末の外気はまだ結構寒いのに早咲きの梅の花が咲き始めた。平塚総合公園の梅林が隣の桜並木の冬景色を尻目に、春の訪れを知らせる。一角にあるゴミ箱は、烏か野良猫のせいか汚く散乱している。ごみは持ち帰ろうよ。

広報部 原園 信夫

発行人：神奈川県環境学習リーダー会

代表 清水 幸夫

編集人： 広報部長 森 千春

TEL 0468-57-0835 FAX 0468-57-0837

発行日： 2003年1月31日